

TRACK AND FIELD CLUB

陸上部

顧問 東出 夢羽希

陸上部は大阪高校インターハイ中央大会出場を目標に、日々練習を重ねてきました。チーム一丸となって厳しい練習を乗り越え、全国インターハイに出場する選手が出た年もありました。私は主に41期と42期を見ていましたが、練習中は上級生が下級生にアドバイスをし、下級生もそれに応えて一生懸命練習に取り組む様子がよく見られました。また、練習が終わった後は学年を超えて和気藹々と話しており、そういった部員同士の仲良さや練習中と練習後のメリハリがきっと創部当時から続いてきた伝統なのだろうなと閉校を目の前にして感じています。学校が閉じるのは残念ですが、伝統ある陸上部に携わることができて光栄でした。ありがとうございました。



BASEBALL CLUB

野球部

元顧問 田中 正孝

野球部の歴史は柏原東高校、学校創立と同時に始まります。2期生にはプロ野球に行かれた先輩がおられます。現在もプロ野球のフロントとして活躍されています。大阪夏の大会も5回戦まで進まれ柏原東高校、最高の成績です。「硬式野球をするなら柏原東高校に行こう。」と地域の中学生の間では言われていたように聞いています。2018年春季大会3回戦では大阪桐蔭(日本一)に一時4対0とリードし、メディアに取り上げていただきました。少ない人数でも先輩方の伝統を引き継ぎ「やればできる！」ことを証明してくれました。2020年夏の大会、部員4名、マネージャー2名で連合チームとして最後を締めくくってくれました。今回残念ながら閉校となりますが、柏東野球部の【心】、【絆】は不滅です。卒業生の皆様、ありがとうございました。



TENNIS CLUB

テニス部

顧問 森 慎也

柏原東高校テニス部は、いつの世代も「やりたいことができる」クラブであったと振り返ります。顧問と子ども達と一緒に活動し、賞状を取り続けた時期、仲間と共にトレーニングに励んだ時期、他校との合同練習を積み重ね力を磨いた時期、様々な記憶が柏原東高校テニス部にはあります。成果に至るプロセスも、積み上げた努力からなる成果も、どちらの大切さも、心に感じ育つことが出来る場となりました。多大なご尽力があり最後の42代まで続いたこと、子ども達の未来への活力につながる活動が出来たこと、心より感謝申し上げます。それぞれの記憶の中にある柏原東高校テニス部が、それぞれの人生に寄り添う1ピースになることを願い、幕を閉じます。ありがとうございました。



FUTSAL CLUB

サッカー(フットサル)部

顧問 木次 裕一

柏原東高校サッカー部の歴史を振り返ると、部員数の問題に悩まされ、思うように活動できない日々をすごした世代があったと聞いています。その中でも前向きに活動を続けてこられた卒業生と、熱心に寄り添われた顧問の先生方がいらっしやっただことで、私が赴任した頃には練習に打ち込める環境が整っていたのだなと感謝しています。最後の学年となった42期生では、フットサル部に活動の形を変えましたが、卒業を迎えるまで仲間とともにボールを蹴り、活動を続けることができました。閉校にあたり、これまで積み重ねてきた伝統や思い出の場所がなくなることについては本当に残念でなりません。柏原東高校サッカー部の活動を通してできた仲間や経験に感謝と誇りをもって、寄稿文といたします。



BOYS' BASKETBALL CLUB

男子バスケットボール部

顧問 吉野 達也

昭和53年の創部以来多くのOB、顧問の先生方からのバトンを受け継ぎ、男子バスケットボール部は、42期生選手7名、マネージャー2名の計9名で最後を迎えることとなりました。“一生懸命”頑張り、誰からも“愛される”チームをコンセプトに、「公式戦ベスト32」を目標に日々練習を重ねてきました。近年、その目標は



達成できなかったものの、常に前を向き、決して諦めることのない戦いを見せることができました。バスケットボールは、個々の技術の成長はもちろん、精神面での強さ、幅広い視野、仲間との信頼関係...等を築き上げることができます。それを経験した男子バスケットボール部OBの社会での活躍は目を見張るものがあります。磨き上げられた「柏原東男子バスケットボール部」の輝きは、これからも消えることはありません。社会で活躍されるOBが、これからもずっと輝いてくれるはずだと信じています。最後まで男子バスケットボール部を支えていただいた全ての方々に感謝を申し上げ、寄稿文とさせていただきます。ありがとうございました。

GIRLS' BASKETBALL CLUB

女子バスケットボール部

顧問 國田 純子

柏原東女子バスケットボール部の最後の4年間は、部員が少なく、その中でも経験者よりも初心者の比率が多く、上手いかわからないこともたくさんありましたが、笑いあり、涙ありで多くの



方のサポートを受けながら活動を続けていくことができました。最後は41期生が2名になり、ここで終わるか、合同チームで最後までするかを選択となりました。2名の部員は最後まで戦うことを決心し、機能統合が決まっていた八尾翠翔高校との合同チームで2019年のインターハイ予選に出場し、その幕を閉じました。これまで試合では相手に歯が立たないことが何度もありましたが、どんなにつらい状況になっても、試合の結果として負けが決まっても、投げ出さずに最後までくらいついていく姿、最後まで諦めずに自分たちができることを頑張る姿は柏原東高校生らしく、誇りに思いました。これまで顧問に就き、指導して下さった先生方、卒業生、また様々なところでサポートして下さった方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。

VOLLEYBALL CLUB

バレーボール部

顧問 川田 明寛

学校創設と同時に産声を上げた柏原東高校男女バレーボール部は、15期生の卒業とともに男子が活動を休止し、以降は女子のみが活動を継続しました。その間、部員数の減少などの困難な時代もありましたが、卒業生や歴代の顧問の先生方が絶やさずに繋いでこられた柏原東バレー部は、2019年7月に41期生の3名が引退し、その歴史に幕を閉じることになりました。私が顧問を受け持った6年間、良い結果は残せませんでしたが、少ない人数でも元気に練習する姿、チームメイトのミスを全力疾走でフォローする姿に幾度となく感動させられ、改めてバレーボールの素晴らしさに気づくことができました。歴史を紡いでくださった卒業生の方々、ご指導に尽力された歴代の顧問の先生方、並びに応援して下さったすべての方々に感謝を申し上げ、寄稿文といたします。



TABLE TENNIS CLUB

卓球部

顧問 杉山 敦史

柏原東高校卓球部は、少ない部員数の中みんなで協力し活動を続けてきました。練習内容は主に生徒たちが考え実施してきました。練習では先輩が先輩にアドバイスを与えながら、互いに成長していく姿が見られました。部員が一学年だけになった際には、卒業した先輩が後輩たちに練習を教えに来て



くれる機会もありました。また、大会にも出場し日々の練習成果を発揮してきました。私が主顧問をし、団体戦で初めて勝利することができたときの喜びは今でも覚えています。大会では日々の練習だけでは得られない経験を得ることができました。部活動で得た大切な経験を忘れずにいたいと思います。





BADMINTON CLUB

バドミントン部

元顧問 中川 美波

感謝

バドミントンを通して、色々な経験や、部員以外の生徒とも関わることができました。部活が嫌でも休まず、一生懸命頑張っている姿を見せてくれる部員のお陰で、毎日が楽しく、沢山の元気と笑顔を貰っていました。どの代の部員にも悩むことは多々ありましたが、39期、40期の卒業式では立派に成長した姿を見ることができました。42期は活動時間が少ない中でも、成長した姿をしっかりと見せてくれました。

柏原東での学びや経験は、必ず卒業後のみなさんの背中を押してくれます。時には立ち止まってしまう時もあるかもしれませんが、そんな時こそ明るい未来を選ぶように、これからの人生を歩いていってください。いつでも柏原東の卒業生の味方です。

沢山の笑顔と出会いをありがとう。



KENDO CLUB

剣道部

元顧問 竹本 茜

先輩方の志を継ぐ部旗の下に

柏原東高校剣道部は「忍」の1文字を染め抜いた部旗の下、学年、男女の隔てなく、みなで汗を流し活動をした仲間です。個々の様々な感情をぶつけ合いながらも、自分たちで考え現状に合うようルールを決め、練習メニューも工夫をして改善していくことをモットーとしていました。マネージャーは選手の練習のサポートや、部員の精神的な支えとなりました。選手たちは、お互いに技のアドバイスをし合い日々練習し、1級認定・昇段審査に挑みました。公式戦に出場した折には、1回戦敗退となっても「来年もまたみんなで来よう」と言い合える素晴らしい経験を持つことができました。

高校を卒業して社会に出てからも大切にしたい仲間意識を、部活動を通して育みました。



KARATE CLUB

空手道部

元顧問 泉本 貴彦

目標

主に38期生が部員の時に担当をさせていただきました。部室には過去に頑張っていた練習道具などもたくさん残っていました。さて、私が担当していたころは、柔道場や剣道場を借りて活動させていただいていました。部員が十人にも満たなかったですが部員たちで練習を考えたり、経験者である教員のアドバイスなどにより、活動をして、己を高めていました。次第に目標を持ち始め、公式戦に出場して勝つという目標が出来ました。数回、公式戦に出場して惜しくも勝つことが出来なかった生徒もいましたが、勝つ生徒もいました。

こう成りたいと目標を持って努力すると更なる練習の成果が得られるのかなと感じました。ときには意見がぶつかりあうこともあるかもしれませんが、それも力に代わると思いました。



SWIMMING CLUB

水泳部

顧問 松宮 大空

水泳部は少ない部員の中一生懸命に活動を行ってきました。部員がない時期もあり先輩からの伝統を引き継ぐということは難しかったと思います。そのため、一から自分達で練習を考え、その練習にひたむきに取り組みました。私は主に42期生が部員のときに担当させていただきましたが、先輩が少ない中でも自分で練習を考え、公式戦の制限タイムを突破するという目標を頑張りました。最後まで練習を頑張り目標の制限タイム突破をクリアすることができました。自分で考えた練習で最後の壁を乗り越えることができたという達成感は素晴らしいです。閉校を迎えることになりこの活動が後輩に伝わることなく終わってしまうのは非常に残念ですが、この水泳部を担当できて楽しかったです。ありがとうございました。





DRAMA CLUB

演劇部

元顧問 河野 沙紀

柏原東高校演劇部は、細々と、でも舞台に立つことを目指して頑張っていました。部員が一人のときでも文化祭で演劇をしたこともありました。先輩方がこの演劇部をつないでくださったおかげで、廃部になることなく最後まで来ることができました。

演劇部は、2017年から演劇連盟に加盟し、校外の活動も積極的に参加し、新しい知識や技術を取り入れてきました。2018年には地区大会へ出場し、2019年には地区で優秀賞、創作脚本賞をいただくことができました。

「演劇ができる場所があるのは当たり前じゃない」と、周りへの感謝をいつも忘れず、練習に取り組んできました。柏原東には多くの思い出があります。寂しい気持ちもありますが、それよりも感謝の気持ちでいっぱいです。本当にお世話になりました。



TEA CEREMONY CLUB

茶道部

顧問 早浪 進也

柏原東高校茶道部は、少ない部員ではあるものの、楽しむことを第一に活動をしてまいりました。外部講師である石井宗喜先生の指導の下、熱心に練習に取り組み、自主練習では部員同士で和気藹々と取り組みました。対外活動としては、本校生徒会と共に年に1回大阪教育大学の留学生を本校に招き、交流会を行いました。府立八尾翠翔高校の茶道部と協力して茶道体験を催し、好評を得ることができました。また、学校茶道の会にも参加し、他校の茶道部の部員達と交流することができました。この茶道部での活動が、今後の人生における趣味の幅を広げる一助になれば幸いです。



CALLIGRAPHY CLUB

書道部

顧問 布澤 芳人

昭和58年に同好会として発足。途中休止状態もはさみ令和元年まで存続した。部員数は最盛期(23期、34期~38期)では10名以上を維持していた。記録に残る顕著な活動歴としては、平成12年(23期)の『巨大ろうけつ染め』は大阪高校書道展で注目を浴び、30年誌P23に一部を見ることができる。

また、平成22年~29年にかけては書道の専任教員が2名体制となり、手厚い書道教育がなされた。特に34期~38期では活発に活動している。文化祭では、グラウンドに降りる手前の広いスペースで部員みんなが書く、書道パフォーマンスは3年間多くの観客を引き付けた。縦9m横4mの巨大な紙に『舞』『輝』『闘魂』の文字を、特大の筆をリレーしながら書き上げた。(40年誌P21、P23)。

また、大阪高校芸術文化祭にも毎年入選者を出し、さらに奨励賞も獲得している。大阪高校書道展でも代々参加してきたが、なかでも大阪市立美術館の壁面16mを使つての様々な作品群は圧巻で、そのバラエティーに富む表現スタイルは府内の高校生の大きな刺激となり視野を広げることに貢献したと自負している。

そんな頃、「大阪高校進学フェア」の大きなメイン横看板を墨の作品でと、依頼され制作したことも44年の歴史の中のうれしいひとこまである。



SCIENCE CLUB

理科部

元顧問 川田 明寛

授業では扱えないような本格的な実験を行ったり、フィールドワークに出るの調査を行ってきた理科部は、大阪府学生科学賞における佳作の受賞(50,51,52,55回)を筆頭に、大阪府地学教育研究会主催地学研究発表会への参加、高等学校・中学校科学研究発表会への参加など、多方面にわたり本格的な研究を行ってきました。近年では、少人数ではありますが、部員の「やってみたい」という気持ちを尊重し、実験室でできる顕微鏡を用いた観察や実験だけでなく、校内の畑を利用した作物の栽培を中心に活動してきました。理科部の活動が論理的な思考力の育成だけでなく、花や野菜を育てることで豊かな心の育成に少しでも寄与できていれば幸いです。



ART CLUB

美術部

元顧問 今中 紗織

美術部は「一人ひとりが自分のやりたいことを探究する」ということを主軸に、絵画・立体制作、デッサン講習、ミニチュアハウスやアクセサリー作りなど、各々のペースで楽しみながら作品づくりをしてきました。趣味のものづくりや文化祭での展示をはじめ、大阪府下の高等学校の美術部が出品する夏の高校展や冬の芸文祭、ブロック展にも継続して参加するなど、積極的な活動を続けることができました。一方で、自分の表現技術に悩んだり、一つの作品を完成させる難しさに涙したりと、葛藤していた部員たちの姿も強く印象に残っています。「自分のやりたいことは何か?」という大切な問いに向き合った高校時代を糧に、自分らしく人生を歩んでほしいと願っています。



BROADCASTING CLUB

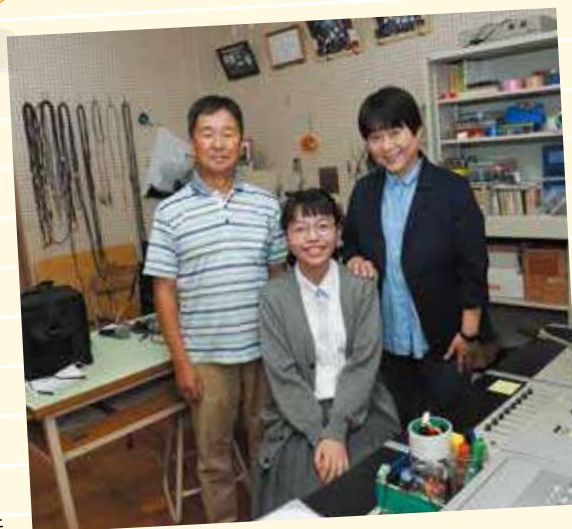
放送部

元顧問 原田 恵子

放送部は、昼休みに音楽を流し、行事の際の放送機材の設置、体育祭や文化祭ではアナウンスを務めるなどの活動をした。部員は多い時には10名ほどおり、週に1,2回は放課後に発声練習やアナウンスの練習をし、体育祭・文化祭前には、クラスの活動が終わった後に残って練習や準備をした。文化祭ではアナウンスだけでなく企画として部員が創作したオリジナルストーリーで「ドラマCD」を作成した。

令和元年度は3年生2名、2年生1名の少人数で行事に参加し、少人数ながら協力分担して役割と責任を果たした。

最終年度である令和2年度は3年生1名だけとなり、最後の体育祭の放送機材の準備は大変であった。当日は卒業生1名が在校生の家族であった為、応援に駆けつける事ができ、無事見事な体育祭を成功させる事ができた。



BRASS BAND CLUB

吹奏楽部

顧問 橋本 あゆみ

吹奏楽部は、長年部員数に悩みながら活動をしてきました。中学校では30~40人の部員数がある吹奏楽部で活躍してきた生徒たちが、本校で10人足らずの人数で活動することに、戸惑いや葛藤があったと思います。しかし、少ない人数の中で練習方法や演奏方法を工夫し、自分たちの音楽を奏でようと、積み重ねてきた努力が柏原東のサウンドを作り上げてきました。今年度4名の部員は、様々な楽器のリズムやメロディーを補いながら演奏をしています。演奏を披露する機会は少ないですが、自らの演奏技術向上のために日々練習をし、4人で協力し合いながら活動する時間が、彼らにとってかけがえのない思い出になることでしょう。閉校にあたり、これまで吹奏楽部を支えてくださった多くの方々へ改めて感謝申し上げ、寄稿文いたします。本当にありがとうございました。



MANGA CLUB

漫画研究部

顧問 小林 妙子

「一日一絵」でスキルアップ

漫画研究部は、アニメや絵を描くことが好きな生徒たちが集まり、「一日一絵」を目標に、それぞれが楽しく絵を描き、スキルアップをめざすという活動を続けてきました。文化祭では、部員全員が各自好きな絵を描き、冊子を作成して配布したり、展示を見に来てくださった人に即興で好きな絵を描いてプレゼントするという催しをしたりしました。また、生徒会から依頼されて体育祭の「進行プログラム」の表紙の絵を描くという役割も果たしました。

また、2018年には当時の2年生(41期生)が「全国高等学校漫画選手権大会~まんが甲子園~」に参加しました。残念ながら本選には進むことはできませんでしたが、普段は個人とする作業がメインとなる漫研部員が力を合わせて一つの作業に取り組んだという点で大いに意義があったと思います。





DANCE CLUB

ダンス部

顧問 村田 恵里果

柏原東高校ダンス部は、ヒップホップやロック、ジャズなど様々なジャンルに挑戦することで、見てくださる皆さんに笑顔で楽しんでいただけるように、また踊っている自分自身が楽しむことで「ダンスが好き」という純粋な気持ちを表現してきました。文化祭では息の合った動き、迫力ある振付、衣装を瞬時に変えるなど、見どころある演出に毎年工夫を凝らしました。ダンス披露の場は校内にとどまらず、柏原市内や大阪府主催のイベント、近隣の中学校など多岐にわたり、たくさんの声援をいただくことで地域の方々にも支えられ応援していただきました。ダンス部を通して、ダンスは言葉のいらぬコミュニケーションであることを体感しました。



INTERNATIONAL COMMUNICATION SOCIETY

国際交流同好会

首席 川田 明寛

国際交流同好会は、大阪教育大学の留学生との交流を主な目的として、平成28年度に設立しました。生徒会執行部を中心にメンバーを構成し、毎年1回大阪教育大学の留学生を本校に迎え、交流会を実施してきました。交流会の企画・運営はすべて同好会の生徒自身が行い、本校茶道部による茶道体験や、書道部による書道作品の作成、英語を用いてコミュニケーションを図りながら日本の伝統文化である七夕飾りを一緒に作成するなど、日本文化を体験できるプログラムを実施してきました。留学生の方々は、母国の伝統的な遊びの紹介・体験や、伝統舞踊や音楽の披露など、各国の文化を認め合い、双方にとって実りのある交流会を目指し、活動を進めてまいりました。この活動は、八尾翠翔高校へ引き継ぎ、継続させていきます。



生徒会部

首席 川田 明寛

閉校記念誌の寄稿文作成にあたり、学校創設から現在に至るまでの生徒会活動の変遷を確認するために各周年誌を読み返していきました。柏原東高校の生徒会活動は、時代とともに変遷する生徒のニーズに応えるべく、当時の先生方による大小さまざまな改善を経て、現在の形が作り上げられてきたこと改めて実感いたしました。今も昔も生徒が主体となり、生徒会活動を通じて飛躍的に成長していく生徒たちの姿こそ、柏原東高校の歴史そのものだと感じています。

<新入生歓迎行事>

4月に新しい年度を迎え、新入生を迎え入れるイベントは、20期生の頃は5月に『新歓スプリングキャンプ』と銘打って1泊2日の宿泊行事として行われていました。この行事は自由参加ではあったものの、多くの新入生や上級生の実行委員が参加して盛大に実施されていました。その後、この宿泊イベントは、『リーダー研修』や『サマーキャンプ』と名前を変えながらも引き継がれ、昨年その役目を終えました。

最終学年として42期生が入学した当時は、入学式前に体育館前でピラを配りながら行うクラブPRにはじまり、先輩クラブ員による入学式での校歌披露、新入生の前でパフォーマンスを行い勧誘するクラブオリエンテーションなど、クラブ員が中心となって新入生を歓迎しました。その根幹である「1日でも早く新入生に柏原東高校の生活に慣れてほしい」という気持ちは、開校以来変わることなく引き継がれていきました。

<体育祭>

柏原東高校最大の学校行事である体育祭。第4回大会より生徒会主催となり、今年は第44回大会となります。19期生の年に体育祭の改革が進められて以来、3年生を中心に縦割りの団を構成し、応援スタンドを設置した形式は受け継がれ、応援合戦・スタンド応援・応援看板・応援旗の4つのパートが趣向を凝らした団活動を繰り広げました。応援スタンドに設置された応援看板を背に、学年関係なく声援を送る姿は、今も昔も変わらず見る者を熱くさせてきました。そして体育祭のフィナーレは2・3年生による集団演目。女子のマスゲームでは、熱い気持ちをダンスで表現する姿が後輩や観客を魅了してきました。そして男子による組体操とエッサッサ。静寂につつまれたグラウンドに響き渡る太鼓と生徒による掛け声の迫力に圧倒され、体育祭を締めくくるにふさわしい男子の立ち振る舞いが、この柏原東高校で成長した証として見るものを熱くさせてきました。

この良き伝統は、毎年後輩たちへと継続されていきました。先輩の姿に憧れ、「加速度的に成長」する姿を幾度となく見てきました。42期生のみで実施する第44回体育祭は、1学年だけでの開催になりましたが、引き継がれた伝統に恥じぬような、柏原東高校伝統の体育祭を締めくくるにふさわしいものでありました。

